

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4271200547
法人名	社会福祉法人 もみの木会
事業所名	グループホーム もみの木の家
訪問調査日	平成 20 年 12 月 16 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 26 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271200547
法人名	社会福祉法人 もみの木会
事業所名	グループホーム もみの木の家
所在地 (電話番号)	長崎県東彼杵郡東彼杵町里郷1804-1 (電話) 0957-49-3852

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成20年12月16日	評価結果報告日	平成20年1月26日

【情報提供票より】(平成 20年 11月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	15 人	常勤	10 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 13.6 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 (単独)	(新築) / 改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	— 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成 20年 11月 1日現在)

利用者人数	15 名	男性	1 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 87 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩永医院、鈴木病院、村岡歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くに母体施設と地域の公園と運動場があり、地域の中で自然に囲まれた場所に位置している。玄関前はスロープがあり、ベンチが置かれ、近所の方の畑仕事の帰りに立ち寄り、通りがかりに花を持ってきてくれる人がいたりして、地域の人々との交流が図られている。母体施設設立からの地域との関係づくりの努力が、ホームと地域のつながりにも反映し、日頃から、地域とのかかわりを重視した理念の実践に取り組んでいる。ホーム内も家庭的な雰囲気があり、日々の暮らしに笑顔が広がる関係づくりと、生き生きとした暮らしの実現に向けて、生活場面での役割や楽しみづくりが支援の随所に見受けられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価における改善課題について、法人において確認し、ホームの管理者に報告され、職員へは口頭での通達を行っている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員がそれぞれに自己評価に取り組み、その後ミーティングを経て管理者が取りまとめている。自己評価は、各職員が自身の支援やケアを振り返る機会にもなっている。また、家族にも送付し、意見をもらえるように積極的な取り組みがなされている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 3ヶ月ごとに開催している会議では、出席者から、それぞれの立場で活発に意見を出してもらっている。報告内容に対する質問事項も多く、会議録に残し、次の会議の際に回答や改善事項を報告している。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が面会に訪れた時に意見や希望を聞き取るようにしている。また、運営推進会議のメンバーに入ってもらったり、苦情受付の窓口の提示や意見を出してもらえるようなチラシを貼ったりするなど、家族等の意見を細かく汲み取れるような取り組みを心がけている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 母体施設とともに町の行事に参加したり、地域住民に事業所の行事への参加を呼びかけたりしている。地域活動では、こどもパトロール隊のメンバーとして参加したり、地域ぐるみの講習会に参加したりしており、地域の一員として活動に参加するよう心がけている。また、地域のボランティアを要請したり、地域の人との関係性を大切にしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスへの移行に際して、母体の理念である「笑顔あげます」を基本とし、新たに地域とのかかわりを重視する文言を加えた理念をつくりあげ、玄関や台所に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域の行事に利用者と管理者、職員が一緒に参加するように努めるなど、利用者の住んでいた地域とのかかわりを大切にするように心がけた取り組みを行っている。理念の共有と実践に繋がるような日常的な取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体施設とともに町の行事に参加したり、地域住民に事業所の行事への参加を呼びかけたりしている。地域活動では、こどもパトロール隊のメンバーとして参加したり、地域ぐるみの講習会に参加したりしており、地域の一員として活動に参加するよう心がけている。また、地域のボランティアを要請したり、地域の人との関係性を大切にしている。	○	同地域に住んでいる職員もおり、地域行事に家族も一緒に参加したり、地域の方が利用者の見守りを自然に行ってくれたりしているのので、今後も継続した関係づくりを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を理解しており、自己評価については、職員への意識化を図るため各自で取り組むようしている。運営者・管理者・職員がともに評価を活かし、サービス向上を推進しようという積極的な姿勢があり、評価への意識の高さが窺えた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月毎に行う会議では、取り組み等の報告だけにとどまらず、参加メンバーからも積極的な質問や意見が出されるようになってきている。ホームとしても今後取り組みを検討していること等を議題にあげ、意見をもらい了承を得ながら、実行に移している。		

長崎県 グループホームもみの木の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の直営である地域包括支援センターが開催する事業所連絡協議会には必ず参加し、町担当者ともかわる機会を設けている。また、認定結果に関する連絡、相談等において連携を図るよう努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真を多く取り入れたホームだよりを作成し、利用者ごとに3ヶ月に1回送付している。家族がホームだよりを見ることで、利用者や職員との間の話題となっている。また、職員の異動等については、面会時のあいさつで報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に訪れた時に意見や希望を聞き取るようにしている。また、運営推進会議のメンバーに入ってもらったり、苦情受付の窓口の提示や意見を出してもらえようようなチラシを貼ったりするなど、家族等の意見を細かく汲み取れるような取り組みを心がけている。	○	家族の意見を尊重しようという姿勢が窺えるので、今後とも機会あるごとに会話する時間を設け、意見の収集、反映に努めるよう期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は数年変わっておらず、法人内の異動もできるだけ少なくして対応できるように努めている。また、以前勤めていた職員をパートで雇用するなど、働き方を考慮して対応している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、運営者や管理者の勧めで業務として研修に参加している。また、近場でのセミナー等の案内を回覧するなどして参加を促し、研修参加の機会づくりに取り組んでいる。研修資料は、事業所内の見やすい所に置くほか、職員が各自が保管している。また、法人内でも研修会を行っている。	○	復命書を作成しているので、さらに、受講した職員から伝達講習を行い、受講者本人の復習と他の職員の勉強の機会を作るよう取り組みの検討を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の事業者連絡協議会の際に、管理者が同業者との交流に参加しており、町のグループホーム協議会の立ち上げを検討している。また、法人内施設との交流は図っている。	○	連絡協議会での交流を活かし、他のグループホーム職員等との交流を図り、お互いにケアの質の向上に取り組むことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームに見学に来てもらい、本人や家族が納得したうえで入居に至るよう支援している。地域住民の場合は、日頃からホームに立ち寄ってもらったり、行事でのかわりがある人が多く、利用者とも馴染みの関係ができていくことも多く、スムーズに入居できている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日頃の生活場面において、利用者から地域の昔話など様々なことを教えてもらい、家族の一員として利用者に寄り添い喜怒哀楽を共にしている。お互いに「ありがとう」と声をかけ、お互いの笑顔で元気をもらっており、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の暮らしの中で、外出や食事、活動などの希望を聞いたり、把握が難しい場合は具体的に選択肢を提示し選んでもらったりして、意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当制にしており、利用者ごとに担当職員がアセスメント、モニタリングを行い、本人や家族の意向を事前に把握して介護計画を作成し、ケアプラン会議で検討し、管理者が最終的な計画作成を行っている。	○	個別に介護計画について話し合う時間を設け、家族にも計画作成に参加してもらい、利用者主体の具体的な計画を作成し、支援方法がさらに充実するよう期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化がない場合でも、3ヶ月に1回定期的にモニタリングを行い会議で検討しながら、見直しを行っている。また、家族にもその都度説明し、同意を得ている。		

長崎県 グループホームもみの木の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や外泊が自由にできるように支援しており、家族の宿泊にも柔軟に対応している。入院した利用者に定期的に面会に行き洗濯物の世話をしたり、知人や友人のホームへの訪問を受け入れたりしている。また、本人の希望で今まで音信不通だった家族を探し連絡を取って、家族関係の再構築を支援した事例もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医との関係性を大切に、そのまま継続してもらっている。かかりつけ医に他の病院を紹介された場合も、家族と連携をとり、受診への同行など、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化し、ホームの浴室で入浴が難しくなった利用者への介助における工夫や、母体と連携を図り機械浴対応を検討するなど、重度化した利用者をどのように支援できるか模索している。また、医療支援の必要性が高まりホームでの対応が困難になりつつある利用者等に対しても、事前に家族等と相談し、その後の支援体制を検討している。	○	今後とも重度化・終末期の対応について家族・本人の意向を大切に考え、柔軟でかつ納得いく方向性で進めていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホームだよりへの個人写真の掲載について、家族等にも了承を得るなど配慮している。また、居室入室の際の同意などについても、個別に配慮した対応を行っている。	○	自己評価において反省点にあがっている言葉への配慮についても十分に意識を持ち、理念である「笑顔」や、さらなるサービスの質の向上に結び付けていくことを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事中に、席に付いたり離れたりを繰り返す利用者に対しても、強制せず、本人の意向を尊重し、見守りながら支援している。また、日中は居間で過ごす利用者が多いが、その日の体調や気分に合わせて過ごせるよう、それぞれのペースを大切に支援している。また、家族に自宅での暮らしの様子を聞きながら、一人ひとりの心地よい暮らし方を見出すように努めている。		

長崎県 グループホームもみの木の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は同じ食卓につき、会話を楽しみながら一緒に食事をしている。利用者はそれぞれに料理の下ごしらえや食事の準備、後片付けなどを行っている。献立は、地域の郷土料理を取り入れたり、季節の野菜やいただきものなどを使ったりして、工夫しながら作っている。また、誕生日には好きなものを作ったり、外食を楽しんだりする取り組みも行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回は必ず入浴してもらえるよう支援している。ユニットごとに曜日を設定しているが、設定された日に入浴しない場合などは、翌日に勧めたり、入浴に抵抗がある利用者にもタイミングを見計らい、楽しんで入浴してもらえるよう支援している。また、重度化した利用者への支援についても職員で検討しながら取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員各自が得意なことを披露し、利用者の楽しみなどにつながるものを見出したり、行事などで利用者が楽しめる演出を試みたりして楽しみ事の支援を行っている。また、日常的に手作業や畑作業、料理の下ごしらえ、洗濯物たみ等の役割を持ち、いきいきとした暮らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域行事への外出以外にも、ふるさと訪問、お寺詣りや墓参りへの外出なども支援している。また、利用者の自宅や自分の畑を見に行ったり、自由にドライブを楽しんだりして、日常的に外出できるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、午前7時過ぎから午後7時ごろまで鍵をかけておらず、面会者がいる場合は遅くまで開けている。玄関が居間や台所から見渡せない場所であることもあり、センサーでチャイムが鳴るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の火災訓練は、消防署や分団の協力を得て行っている。また、地域の有線放送では緊急時の放送が流れるため、地域住民への情報が流れるのも早く、母体施設との連携体制を整え、協力が得られやすいようにしている。今後、母体施設とともに夜間対応の訓練などにも取り組むとさらに効果的ではないだろうか。		

長崎県 グループホームもみの木の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は食材の使用状況などをもとに献立を作成しており、1か月に1回は法人の管理栄養士に栄養価の評価をしてもらい、バランスが保たれるようにしている。ソフト食やミキサー食を用意したり、配膳などを工夫して、利用者それぞれに食事がしやすいよう支援している。摂取量については、個人記録として把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の部屋に炬燵を置いたり、居間にソファを置いたりして過ごしやすい場所を作っているほか、玄関先にベンチを置き、近所の方との交流ができるような計らいが見られる。調査時はクリスマス前で、季節感あふれる利用者や職員の手作りの品が飾られていた。共用空間にも利用者それぞれのお気に入りの場所があり、居心地のよい空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では、自宅で使用していた寝具を使用したり、タンスや椅子、机などを置いたりしている。また、自分の絵画作品を飾ったり、自宅から絵画道具を持ってきたりしている。そのほか、シルバーカーを利用している方が、シルバーカーを押し入れに片付けやすいように、わかりやすくし、安全面への工夫をするなど、居心地良い居室となるよう配慮が見受けられる。		